

P1-0006

**(公社) 神奈川県理学療法士会会員ライフサポート部活動報告
10年間の活動を振り返って**

萩原 文子, 寺尾 詩子, 大槻かおる, 大島奈緒美, 西山 昌秀, 清川 恵子, 杉山さおり,
久保木あずみ, 佐藤 史子, 石田 輝樹

神奈川県理学療法士会

key words 事業報告・支援・就業

【目的】2005年より, 様々なライフイベントがある中で, 理学療法士(以下, PT)としての就業継続と復職の支援を目的として活動してきた, (公社) 神奈川県理学療法士会会員ライフサポート部(以下, 当部)の10年間の活動と今後の課題などについて報告する。

【活動報告】当部は, 2004年当時, 女性会員が30歳代以降に激減する現状に注目し, 就労継続が困難になる原因を探るべく, 2005年に「女性会員支援事業委員会」として発足した。アンケート, 施設・個人への取材等の調査を重ねる中で, 女性に限らず, 育児・家族の看護や介護・自身の療養・職場環境など, 就業継続を困難にする要因は多岐にわたり, 年齢・性別に関係なく支援の必要があることが分かった。そのため, 2007年に「会員ライフサポート委員会」, 2008年に「会員ライフサポート部」と改称し, 活動を継続している。調査・報告と合わせて, 県士会ニュースなどでの情報提供や復職支援事業として研修会や交流会の開催, 研修会への託児室設置, 復職支援実務研修などの活動を行っている。

【考察】就労人生における様々なイベントに合わせた働き方は多様であり, 就業継続できる職場環境は, 性別や年齢に関係なく, 様々な人の様々な出来事に対応できる, 働きやすい職場環境に繋がることが分かった。しかし, 情報が必要な人に届かない現状も明らかになり, 情報提供の方法も更に検討していく必要があると考える。

【結論】就業継続できる働きやすい環境を整えることで, PTの地位や質の向上にもつながると思われる。当部は, 今後も会員の就業継続をサポートするとともに, 休職・離職した会員に対しての復職支援を強化し, 会員がPTとして働き続けられる環境支援のため, 活動を継続していく。